

第115号

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE ALUMNI ASSOCIATION NEWS

〔発行所〕
東京農業大学校友会
〒156-0054
東京都世田谷区桜丘3丁目9-31
電話 03-3429-1983
FAX 03-3427-2271
〔編集発行人〕
校友会会長 三好吉清

東京農業大学 校友会ニュース



全国支部長会議であいさつする三好会長

重点要望事項など討議

平成25年度 全国支部長会議

真新しいアカデミアセンター横井講堂で開催

平成25年度全国支部長会議が3月7日、真新しい東京農大アカデミアセンター横井講堂で、学校法人東京農業大学理事長の大澤貫寿先生、東京農業大学・同短期大学部学長の高野克己先生、学校法人常務理事、副学長らを来賓に迎え75人が出席して開催された。

代議員数の見直しを報告

I 報告事項

東京農業大学校友会の小泉幸道副会長の開会の辞に続き、主催者を代表して三好吉清会長があいさつ、大澤理事長、高野学長から来賓のあいさつがあった。

小野甲二事務局長の司会で来賓および校友会役員が紹介された後、平成25年度に交代した新支部長5人が自己紹介した。次に、司会から校友会功労者4人が紹介された。

代議員数は、昭和62年の通常総会で162人に変更、その後見直しが行われていないため、一部支部間で基準に合致しない状況が生じている。

このため、次の改選期までに見直しを行う必要がある、この間検討を続け、2月14日の理事会で改正内容を決定、平成26年度通常総会で各代議員に報告する。

見直しの内容は、①連絡先判明者を選出根拠会員数とすること②代議員は、改選の都度見直しを行うこと③選出根拠会員数は、改選の前々年度の10月現在とすること④配分方式は、1人の定数プラス正会員比例配分とすること⑤支部長を含め最低3人とする（この5つ）。

（2）平成26年度地域後継者推薦入試について
本年度の入試結果は40支部から96人の推薦があり、全員合格となった。

キャンパス別内訳は、▽北海道・東北ブロッ

II 討議・検討

（1）ブロック会議結果報告
法人、大学および校友会に対する重点要望・提案事項の報告がブロック担当支部から行われた。主な要望・提案事項は次の通り。

①学校法人に対する事項
・創立125周年記念事業資金募金への取り組み
・大学入試のPR強化

②大学に対する事項
・地域後継者推薦入試制度の改善拡充、卒業生進路情報の提供
・地方教育懇談会の充実、新たな資格制度の創設
・スポーツ振興基金の配分

③校友会に対する事項
・校友会総会の運営改善、支部助成費の増額
・教職員部会全国会議の開催、女性部会の設置
・支部総会などの活性化対策

（2）重点要望・提案事項への回答
学校法人は鈴木昌治常務理事、大学は小泉幸道副学長、校友会は小野甲二事務局長から詳細に回答が行われた。

石原議長から質問・意見・動議などの発言を議場に求めたところ、回答に対する確認および参考意見が出され、校友会および大学から応答して本件議題は終了。石原議長は降壇した。

III 連絡事項

校友会から、①地域後継者推薦入試における推薦手順などの確認調査結果②東京農業大学ブランド確立に関する調査結果③当面の会議などの日程について――の報告があった。

また、大学からの連絡事項として、平成26年度入試状況について松丸禎二入試センター長が、就職状況と対策について梶山孝泉キャリアセンター長が現況報告と協力要請を行った。

最後に外園桐校友会副会長が閉会のあいさつを述べ、午後5時に終了した。続いて支部長等懇親会をグリーンアカデミーレストランで開き、各支部との情報交換と懇親を深めた。

3396人が巣立つ

―平成25年度学位記授与式―

平成25年度学位記授与式が3月20日、世田谷キャンパス桜丘アリーナで、大学院農学研究科、応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部、短期大学部の合同で挙行された。翌日の3月21日には厚木キャンパス体育館で大学院農学研究科、農学部、学位記授与式が盛大に行われ、3月17日にはオホーツクキャンパスで大学院生物産業学部の学位記授与式が、地元の水谷網走市長ら多数の来賓出席のもと盛大に挙行された。3キャンパス合計で3396人が巣立った。

高野学長から「輪」という言葉は、これから社会に飛び立つときに一番大切にしたい言葉である。人は決して一人では生きていけないので、人との「輪」、海外とのグローバルな「輪」、卒業生の「輪」をもってつながり、学びの中から道を生かす道を探り、その先の夢の実現に突き進んでほしい」との告辞があり、三好校友会長からも門出を祝う祝辞があった。



世田谷キャンパス(3月20日)



厚木キャンパス(3月21日)



オホーツクキャンパス(3月17日)

―平成26年度の入学生―



世田谷キャンパス(4月2日)



オホーツクキャンパス(4月4日)

3キャンパスで3577人

平成26年度入学式が桜丘く4月2日、世田谷キャンパス桜丘アリーナで、大学院農学研究科、農学部、応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部ならびに短期大学部の合同で挙行された。式には、海外協定校のブラジル連邦共和国アマゾンニア農業大学のSUEO NUNAZAWA 総長が出席され祝辞を述べら

れた。また、オホーツクキャンパスでは4月4日、大学院生物産業学部の入学式が挙行された。本年度の入学者は3キャンパス合計で3577人であった。

高野克己学長から「応用生物科学部に東京農業大学では22番目の学科となる食品安全健康学科が開設され、第1期生として162

人を迎えた。食品安全健康学科は、食の安全と健康を教育研究する学科であり、日本で唯一の学科として活躍が大いに期待されています。新入生の皆さんは、常に目的、志を持って、それぞれの夢の実現に努力してほしい。そのためわれわれ教職員は、教育研究を通して、または対話を通じて全力でサポートしていきます」との式辞を受け、農学部樋口霧花さんが「今日の入学の喜びを忘れることなく、東京農業大学の教育研究理念である『実学主義』の下、社会のため、地球のため、命ある生き物のために全国から集まってきた仲間と共に、切磋琢磨（せっさたくま）していくことをここに誓います」と新入生を代表して、力強く宣誓を行った。

全国支部長会議は校友会理念を再確認する場として毎年開催しています。今年は大雪のため、急きょ、日程を変更して皆さまにご迷惑をおかけしました。

本日は、大澤理事長、高野学長、鈴木常務理事を来賓としてお迎えしています。各位には、日頃より校友会諸活動に多大のご協力を賜っていることに感謝申し上げます。

国内47支部・海外11支部では、毎年、多くの校友が参加して支部総会が開催され、ここでの意見・要望などを全国5つの「ブロック会議」に持ち寄り、さらに検討を深めています。

本日の会議は各ブロックから提起された事項について、組織的な検討を行う評議の場であり、校友会なら

びに母校の発展に資する意義ある会議であります。各位が等しく校友会の目的を共有し、有意義な会議にしていたきたいと願っています。

昨年の会議以降の主な出来事を振り返ってみると、昨年のこの会議では、大学創立125周年記念募金への対応について協議、組織一丸となって募金に協力する旨を「全国支部長会議申し合わせ」という形で採択していただきました。そして25年度総会で、都道府県別目標を機関決定して募金活動をスタートしました。現時点での実績は約3100万円となっています。

経済情勢が思わしくない中で、会員への周知にご苦

心していただいていることに感謝申し上げ、引き続きのご協力をお願いします。

地域後継者推薦については「人物を畑に還（かえ）す」という農大理念にご理解を賜っております。本制度に多くの支部から拡充要望が出されていますが、大学から与えられた枠組みの中で、精いっぱい支援・協力をを行うという基本的な考えをもって、引き続き優秀な学生のご推薦をお願いします。

国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、

国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、

国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、

国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、

国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、



国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、

国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、

国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、

国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、

国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、

国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、

国内支部総会は42支部において開催されました。若年者や女性の参加など課題山積の中で年々盛会になってきています。近年の特徴として、OBを招いた講演会を開催する例が多くなり、

学側に改善の検討をお願いしているところでもありません。

箱根駅伝は、残念な結果に終わりましたが、農大の名声を大いに高めました。1月17日には校友会主催の農友会激励会を開催、運動部で活躍した団体と個人に校友会会長褒賞を授与しました。

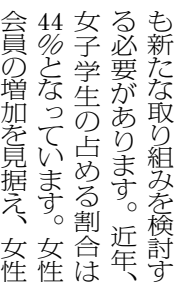
都道府県支部に配分している比例代議員数について、校友会監事の監査で見直しの指摘があり、検討を重ねてきました。その結果、2月14日の理事会で「次期の改選時においては、各支部1人に正会員割をプラスする」という内容で決定しました。次期通常総会に報告した上で配分を行いますのでご協力をお願いします。

都道府県支部に配分している比例代議員数について、校友会監事の監査で見直しの指摘があり、検討を重ねてきました。その結果、2月14日の理事会で「次期の改選時においては、各支部1人に正会員割をプラスする」という内容で決定しました。次期通常総会に報告した上で配分を行いますのでご協力をお願いします。

都道府県支部に配分している比例代議員数について、校友会監事の監査で見直しの指摘があり、検討を重ねてきました。その結果、2月14日の理事会で「次期の改選時においては、各支部1人に正会員割をプラスする」という内容で決定しました。次期通常総会に報告した上で配分を行いますのでご協力をお願いします。

都道府県支部に配分している比例代議員数について、校友会監事の監査で見直しの指摘があり、検討を重ねてきました。その結果、2月14日の理事会で「次期の改選時においては、各支部1人に正会員割をプラスする」という内容で決定しました。次期通常総会に報告した上で配分を行いますのでご協力をお願いします。

都道府県支部に配分している比例代議員数について、校友会監事の監査で見直しの指摘があり、検討を重ねてきました。その結果、2月14日の理事会で「次期の改選時においては、各支部1人に正会員割をプラスする」という内容で決定しました。次期通常総会に報告した上で配分を行いますのでご協力をお願いします。



都道府県支部に配分している比例代議員数について、校友会監事の監査で見直しの指摘があり、検討を重ねてきました。その結果、2月14日の理事会で「次期の改選時においては、各支部1人に正会員割をプラスする」という内容で決定しました。次期通常総会に報告した上で配分を行いますのでご協力をお願いします。

都道府県支部に配分している比例代議員数について、校友会監事の監査で見直しの指摘があり、検討を重ねてきました。その結果、2月14日の理事会で「次期の改選時においては、各支部1人に正会員割をプラスする」という内容で決定しました。次期通常総会に報告した上で配分を行いますのでご協力をお願いします。

都道府県支部に配分している比例代議員数について、校友会監事の監査で見直しの指摘があり、検討を重ねてきました。その結果、2月14日の理事会で「次期の改選時においては、各支部1人に正会員割をプラスする」という内容で決定しました。次期通常総会に報告した上で配分を行いますのでご協力をお願いします。

都道府県支部に配分している比例代議員数について、校友会監事の監査で見直しの指摘があり、検討を重ねてきました。その結果、2月14日の理事会で「次期の改選時においては、各支部1人に正会員割をプラスする」という内容で決定しました。次期通常総会に報告した上で配分を行いますのでご協力をお願いします。

都道府県支部に配分している比例代議員数について、校友会監事の監査で見直しの指摘があり、検討を重ねてきました。その結果、2月14日の理事会で「次期の改選時においては、各支部1人に正会員割をプラスする」という内容で決定しました。次期通常総会に報告した上で配分を行いますのでご協力をお願いします。

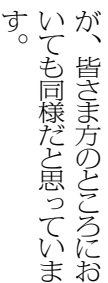
都道府県支部に配分している比例代議員数について、校友会監事の監査で見直しの指摘があり、検討を重ねてきました。その結果、2月14日の理事会で「次期の改選時においては、各支部1人に正会員割をプラスする」という内容で決定しました。次期通常総会に報告した上で配分を行いますのでご協力をお願いします。

新しい東京農大アカデミアセンターで開催されることを心からお祝い申し上げます。

気候変動の影響か、気象の激変か、この冬も数十年に一度と言われる大雪が降ったり、突風が吹いたり、全国いたる所で農業に大きなダメージを与えています。皆さま方のご協力をお願いします。

東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の

東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の

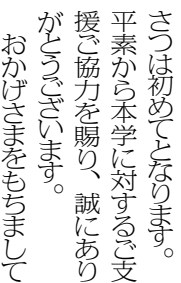


東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の

東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の

東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の

東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の



東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の

東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の

東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の

東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の

東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の

東日本大震災の被災地である福島県相馬市での復興支援活動は、本学が総力を挙げて取り組んできたプロジェクトであり、復興支援活動が2年半を経過したということもあり、東京農大プロジェクトの成果を世に問うという形で『東日本震災からの真の

農業復興への挑戦」という冊子を出版しました。皆さんには地方に戻っていただいた際には、ぜひ地域の方々にも読んでもらうよう勧めたいだければ幸いです。

大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

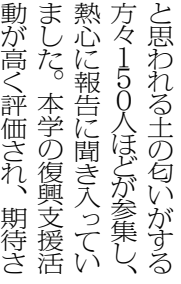


大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き



大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

大学ならびに学校法人を取り巻く状況は、引き続き

来賓祝辞

要旨

学校法人東京農業大学理事長

大澤 貫寿

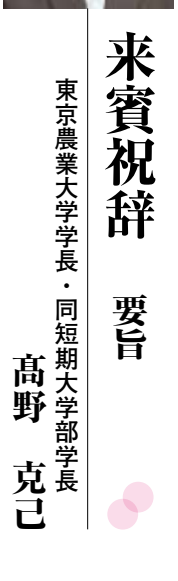
第三高等学校・付属中学校、これだけの教育関連機関があり、その全てが順調推移しているわけではありませ

現在、定員割れの大学は約40%となっています。そのうち3割が赤字法人であり、42法人は破綻寸前だとい

高等教育を取り巻く環境で、学校法人としては、赤字

会場には、普段着で畑からそのままたたきではないかと

結果だと感謝しております。各方面から農大は入試広告をなぜ出さないのかとよく



来賓祝辞

要旨

東京農業大学学長・同短期大学部学長

高野 克己

PRするわれわれは、いかに効率よく高校生や保護者の目につくかということに主眼

入試シーズンの2月、東京に大雪が降りましたが、幸い農大の入試は大雪から

外れ、無事終えることができた。今年の入試状況は、推薦入試も含め約3万6500人の志願者を集め

略室を設けました。この戦略室を中心に今後も学校法人の適正な運営を図っていき

一方、多くの方々の協力を得て、この東京農大アカデミアセンターが出来上が

引越しが終わっています。が、来る3月28日をもってグランドオープンしてい

きたと思っています。それが過ぎれば、このアカデミアセンターと新1号館

1号館が解体されました。多くの思い出や記憶が残る建物でありました。その

跡地に新たな校舎をどうするかということが次の課題として残されています。

学が不利になるとの理由から、この増加は、本学の真の実力の表れだと思っ

18歳人口は、平成33年には114万人となり、減少の一途をたどることになりま

す。この間に、各学科の足を腰を強くするということが必要であり、学生が減って

から改革したのでは遅いと

本年4月より栄養科学科を改組し、食品安全健康学科（定員140人）を新設

しました。

この食品安全健康学科に2300人を超える志願者があ

りました。2000人を超えた学科は、化学、農学、バイオサイエンス、醸

す。できるだけ早急な整備対応を考えていきたいと思っ

一方で、優秀な学生を全国から本学に送っていただ

るようご支援をお願いします。いま、さまざま大学が農学関係に触手を伸

ばしつづありますが、これらの動きを甘んじて見て

いるわけにはいきません。学校法人として、皆さまの

東京農業大学へのご支援を切にお願いします。本日の全国支部長会議が成功

裏に終わることを願っています。

全健康学科でした。初年度でこれだけ集められたのは、

本学の方向性への評価と食の安全・健康問題が成熟社会

会では必要不可欠な学問分野であり、そこを担う人材

養成が社会的ニーズであるとい

うことを反映した結果であると考え

す。このように各学科の充実と東京農業大学の領域を広

めていくことが、今後必要です。そのためには、卒業

母校だより

大学教職員の人事

(順不同・敬称略)

【平成26年4月1日】
東京農業大学副学長・同短期大学部副学長
(任期 平成26年4月1日～平成29年7月4日)
渡部 俊弘 生物産業学部食品香粧学科教授
夏秋 啓子 国際食料情報学部国際農業開発
学科教授(大学院農学研究科委
員長兼任)

学部長
応用生物科学部
国際食料情報学部
生物産業学部
短期大学部
教授
森林総合科学科
栄養科学科
造園科学科
生物応用化学科
生産環境工学科

法人職員の人事

(順不同・敬称略)

【平成25年11月1日】
法人本部長
事務局長
【平成26年4月1日】
オホーツクキャンパス事務部長
施設部長

定年を迎えた先生

玉井 富士雄 教授

山口県出身。昭和46年農
学科を卒業。昭和48年大
学院農学研究科農学専攻を修
了。同年4月に助手、平成
22年に農学部教授。平成13
年に博士(農学)の学位を
取得。専門は作物学で「気
候変動に伴う作物栽培法の
改善に関する研究」「雑草の
生態的防除に関する研究」
に従事。学内では農学科長
を、学外では作物学会評議
員、作物学会関東支部長を
歴任。温和・寡黙で、学生
のために、ほ場の耕運・整
備を率先して行われたこと
が印象的です。

牧 恒雄 教授

昭和46年農業工学科を卒
業、同年4月に助手、以来
43年間にわたって農大のた

国際農業開発学科
バイオセーフティ学科
アクアバイオ学科
国際バイオビジネス学科
食品香粧学科

補職

「食と農」の博物館長
図書館長
世田谷キャンパス学生部長
オホーツクキャンパス事務部学生部長
【平成26年4月1日】
東京農業大学支店教授

(順不同・敬称略)

藤本 彰三
吉田 穂積
矢口 行雄
金子 忠二
上原万里子

学会賞など受賞者紹介

日時	受賞名	受賞者名	受賞内容等
9月13日	日本植物学会第77回大会 若手奨励賞 受賞	三井裕樹助教 (バイオセラピー学科)	日本植物学会第77回大会において「溪流環境における生態的種分化の多面的な解析による検証」が評価され、若手奨励賞を受賞
9月15日	食農資源経済学会 学術賞 受賞	堀田和彦教授 (食料環境経済学科)	食農資源経済学会において「農商工間の共創的連携とナレッジマネジメント」が評価され、学術賞を受賞
10月31日	内閣総理大臣表彰 第5回「ものづくり日本大賞」 ものづくり地域貢献賞 受賞	穂坂賢教授 (短大醸造学科) 他	第5回「ものづくり日本大賞」(製品・技術開発部門)において十勝産ビート糖蜜と十勝の花由来酵母で生産した世界初のビートリキュール「ビートのこころあわせ」の開発が評価され、ものづくり地域貢献賞を受賞
11月11～14日	東南アジア国際農学会 ISSAAS SCIENTIFIC AWARD 受賞	藤本彰三教授 (国際バイオビジネス学科)	11月11日～14日にフィリピンで開催された東南アジア国際農学会で、これまでの論文・学会への貢献を評価され ISSAAS SCIENTIFIC AWARDを受賞
3月13～15日	日本農業学会第39回大会 奨励賞 受賞	伊藤晋作助教 (バイオサイエンス学科)	3月13日(木) から3月15日(土) までの3日間にわたって開催された日本農業学会第39回大会において、伊藤晋作 助教(バイオサイエンス学科) が平成26年度日本農業学会奨励賞を受賞
3月16～18日	日本養豚学会第100回大会 奨励賞 受賞	味埜美紀さん (畜産学専攻博士前期課程 2年)	味埜美紀さん(畜産学専攻博士前期課程2年)は、日本養豚学会第100回大会において「肥育豚飼料への緑茶屑およびカンショの活用が肥育成績ならびに生産環境に及ぼす影響」が評価され、第8回奨励賞を受賞

※記載の他、多数あり。東京農大ホームページ「研究コンテンツ→学会賞受賞等」参照。

(平成25年9月～平成26年3月開催分掲載)

気も高く、「実学主義」教
育を展開されました。優
いお人柄と、黙々と仕事を
こなす先生の姿勢は、教
員にとっても良きお手本と
なりました。本場に長い間、
ありがとうございました。

門司 恭典 教授

昭和46年畜産学科卒業、
昭和49年大学院農学専攻修
士課程修了。助手、講師、
助教を経て教授。家畜の
生殖制御に関する教育・研
究、特に家畜人工授精師育
成にご尽力されました。学
内では理事、評議員などを
歴任、厚木キャンパス農友
会の設立、畜産学科創設60
周年記念式典の開催にもご
尽力。ご退職後は郷里・福
岡に戻りますが、畜産学科
同窓会を通じて今後もご尽
力いただけることになって
おります。

高橋 悟 教授

昭和48年農業工学科を卒
業、昭和50年東京教育大学
大学院修士課程を修了、宮
城県立高校の教員を経て、
昭和53年4月農業工学科助
手、平成7年教授。36年
間、教育・研究に尽力、法
人評議員、学科長、体連会
長、ホッケー部長なども歴
任。創立100周年プロ
ジェクトの沙漠緑化研究を
牽引(けんいん)。学外で
も日本沙漠学会の理事や評
議員、国際協力機構(JICA)
の 아프리카 農業開発
プロジェクトの支援委員と
して、活躍されました。

杉本 隆重 教授

工学院大学電子工学科
同大学院電気工学専攻博士
課程修了後、昭和54年1月
本学電算機室の講師に着
任。平成元年に助教、平
成6年に教授に昇格。平

成10年に生物企業情報学
科(現、国際バイオビネ
ス学科)発足に伴い、初代
学科長、コンピュータセン
ター長を務められました。
体連会長、バレーボール部
および硬式庭球部の部長と
して、35年の長きにわたり
尽くされました。4月から
は非常勤講師として、引き
続き教育指導に当たって
くださっています。

永島 俊夫 教授

昭和46年に農芸化学科
卒、大学院農芸化学専攻博
士前期課程修了後、民間企
業に6年間勤務。昭和56年
に本学総合農産加工実習所
(副手)、助手、講師、助教
授へ昇格の間に、博士(農
芸化学)を取得。平成6
年に生物産業学部食品科学
科に着任。平成13年に教
授。食品加工の研究活動に
従事。地域や企業とビル
を代表とする各種製品を開
発。学科長、学生部長、平
成19年法人理事。4月から
は非常勤講師。

井上 知昭 教授

昭和46年農学科卒。山梨
県農試および平塚農業改良
普及所勤務を経て、昭和58
年厚木農場花卉(かき)部。
スイトピーの新作型開発
やシクラメンの直接定植栽
培など実用研究に着手。平
成13年農学博士、平成14年
短期大学部生物生産技術学
科、平成19年教授に就任。
インテリア環境の鉢物品質
保持や植物の色や形と人の
嗜好(しこう) 性など新領
域研究を開拓。現在、農業
生産技術管理学会副会長、
日本農業教育学会会長。

田中 俊次 教授

昭和57年に駒澤大学大学
院経済学研究科経済学専攻

で博士課程を修了。専門分
野は労働経済学や地域経済
学。平成元年に生物産業学
部教養課程講師(現 地域
産業経営学科)。平成15年
博士(経営学)、翌年に教
授に昇格。産業経営学科長
(3期)、寒冷地農場長(2
期)、生物産業学部学術セ
ンター長を歴任。

大久保 武 教授

昭和49年早稲田大学社会
科学部社会科学科を卒業、
昭和63年中央大学大学院文
学研究科社会学専攻博士課
程後期単位取得退学の後、
平成3年農学部専任講師。
平成17年東北大学大学院で
博士(文学)の学位を取得。
平成18年、国際食料情報学
部教授。専門は日系人ら外
国人労働者の労働市場の実
態を社会学の視点から研究
をされました。

石田 裕 教授

昭和47年栄養学科を卒
業。東京都食品衛生協会に
入り、20年間、食品の衛生
検査・研究を行う。平成4
年短期大学部栄養学科に着
任。平成16年に博士(農芸
化学)の学位を取得。学科
長を務め、食品の衛生管理
教育を展開。農友会文連会
長、全学応援団顧問なども
務めた。食品衛生と調理科
学を融合させた研究は、注
目されている。4月からは
嘱託教授。

藤島 廣二 教授

昭和47年北海道大学農学
部卒業、昭和55年北海道大
学大学院農学研究科農業経
済学専攻を修了後、農林水
産省東北農試、同中国農試、
同農業総合研究所を経て、
平成8年から農学部教授に
赴任。農畜産物、生鮮野菜
の流通システムの専門家と

して、国内外の野菜流通シ
ステムの現状、制度的課題
等を研究。長い間、本当に
ありがとうございました。

堀内 久太郎 教授

長野県出身。昭和47年京
大農学部卒業。昭和52年京
大大学院博士課程を単位取
得満期退学後、農水省に入
省、昭和57年京大農学博士、
昭和63年日本農業経済学会
賞受賞。農水省21年、鳥取
大学4年を経て、平成14年
から国際農業開発学科教
授。今日まで12年間にわた
り開発途上国における自給
自足型複合経営の農家調査
を実践。4月からは長男と
して実家のリンゴ・ブドウ
経営と故郷・信州に貢献す
る予定。

佐藤 明 教授

昭和46年宇都宮大学農学
部卒業、同年農林省、以後、
北海道支場、農水省熱帯農
業研究センター、フィリピン
大学林学部派遣、昭和63
年森林総合研究所に配属、
JICA、林野庁首席研究
企画官、森林総研・研究管
理官など重責。平成19年森
林総合科学科造林学研究室
教授としてご着任。奥多摩
演習林長、学科長をお務め
いただきました。

緑川 哲夫 教授

昭和46年東京学芸大学教
育学部卒業、東京都公立中
学校教諭、校長を歴任。小
金井市教育委員会指導主
事、港区教育委員会指導主
事、東京都教育庁参事を歴
任され、平成20年から本学
教職課程教授。

二人でも多くの学生を教

壇へ」を目標に、きめ細か
い教員採用試験対策指導に
ご尽力され、本学教員採用
数の増加に貢献されました。

持ち味を発揮 盛り上がった農大収穫祭

世田谷キャンパス

来場者は10万人超

本学最大の学生イベントである「収穫祭」が、平成25年10月31日（木）から11月4日（月）にかけて開かれた。今回で122回目。「今こそ魅せる農のちから」のテーマの下、学生たちはそれぞれの持ち味をいかに発揮した。5日間で10万人を超える来場者があった。

ミツバチ研究会の「ハチミツ販売」、醸造面科統一本部の「味噌（みそ）販売」のほか、野菜や花卉（かき）、学生の出身地の郷土料理など農大らしい模擬店に長い行列ができていた。また、農大のユニークな研究内容を展示した文化学術展や、全学応援団によるリーダー公開などのステージ企画にも多数の来場者があり、体育祭では各学科が優勝を目指してしのぎを削った。さらには収穫祭ゆるキャラの「大魂ダイコンくん」も登場して来場者を楽しませた。

第122回収穫祭は、NHKのテレビ放映をはじめ多くのメディアで紹介され、株式会社ぐるなびが主催する第5回学園祭グランプリでは、MVPを受賞するなど高い評価を得た。また、早くも第123回収穫祭各本部の役員が選出され、次回の収穫祭に向けて活動を開始した。各役員とも最高の収穫祭を作り上げるべく頑張っており、その成果を大いに期待している。



大勢の来場者でにぎわう文化学術展



ぐるなびMVP表彰



模擬店



野菜配布に長い列

出店し、奇抜な看板や格好で趣向を凝らし、華やかな様子であった。

文化学術展ではスタンプリリーを各展示場所に設置し、抽選で賞品を用意したのが好評であった。ステージ企画では農友会、同好会団体における演奏や企画でにぎわいをみせ、観客の注目を浴びた。体験企画では、親子参加型芋掘り体験「いも園」が今回も好評で多くの参加者があった。また、恒例の野菜無料配布では、多くの来場者が見込まれるため配布場所は事前に知らせない方法をとったが、配布場所の知られがなかった後は瞬間に長い列ができるほどの人気だった。



大勢の来場者でにぎわう模擬店



第14回収穫祭が平成25年11月2、3日の2日間、開かれた。当日は天候にも恵まれ2日間の合計来場者数は3万2744人を数えた。

来場者をみると厚木近隣住民はもとより神奈川県全域、さらには県外からも多数訪れ、例年の様ににぎわいをみせていた。

模擬店では70団体が



ステージ企画



文化学術展

厚木キャンパス

オホーツクキャンパス

市民らと積極交流

平成25年10月12、13日の3日間、記念すべき第25回収穫祭を開いた。悪天候による開店規制などのアクシデントに見舞われたものの、担当学生の迅速な対応で、久しぶりに来場者も約1万人を超える盛況なものとなった。



ウサギ・モルモット・スナネズミ 動物バイテク研究室



金魚すくい 水圏生物化学研究室

平成元年、1期生だけでスタートした収穫祭も、今は収穫祭を運営する実行委員会、宣伝隊、文化学術展、模擬店および特別企画の各本部に多くの新入生が加入して、運営自体も充実し、今後、さらなる発展が期待される。また、東日本大震災後、収穫祭のテーマに「絆（きずな）」「翠（みどり）」「復興の願いを込めてきた。今年はさらに25周年を迎えた本キャンパスの次のステージへの発展を願い、「縁（えにし）」をテーマにさまざまな取り組みを行った。本キャンパスの収穫祭は、お年寄りから幼児まで地元網走市民との貴重な交流の場としてだけでなく、学生のご父母、企業、関連諸団体にもさまざまな形で協力参加いただき、毎年新たな企画を行っている。運営学生にとっては、伝統の継承だけでなく、新規テーマへの取り組みもあり、大変なようであるが、それが成長のチャンスにもなっている。これから収穫祭を大いに楽しむとともに、さまざまな成長のチャンスとして活用してほしい。



YOSAKOIソーラン踊り



正門アーチでの餅・お菓子まき



農大名物青山ほとり



「食と農」の博物館は、この4月6日に開館10周年を迎えました。そこで、博物館と大学の学術情報課程が協同で、「開館10周年記念展示」を開催しています。当博物館の展示としては、展示空間デザインにプロのデザイナーの協力を得た、初の本格的な企画展示となりました。

◎開館10周年記念展示「農と祈り」～田の馬、神の馬～

期間 平成26年3月28日（金）～9月15日（月）

■趣旨

本展では「食と農」の博物館開館10周年を記念し、さらには今年が午（うま）年であることにちなみ、日本の文化体系の根幹にある、四季を背景にした年中行事や神事に現れる馬、民間信仰の中に有形無形に登場する馬を取りあげました。

農家の人々にとって馬は、共に収穫を生み出す役畜であると同時に、神と人をつなぐ媒体でもありました。この二面性は、馬を用いた祭事や神事から明らかに読

◎講演・その他
①「馬の宗教的機能」
【日時】4月19日（土）14時～
【講師】小島 環



「農と祈り」のポスター

琉球大学名誉教授
②「馬と人の恋・『遠野物語』とオシラ神をめぐる」

【日時】5月10日（土）14時～

【講師】前川さおり
遠野文化研究センター学芸員

③「日本の馬とその周辺」
【日時】6月14日（土）14時～

【講師】木村李花子
東京農業大学学術情報課程教授

④「厩（うま）」
【日時】7月12日（土）14時～

【講師】川田啓介
奥州市牛の博物館上席主任学芸員

⑤ギャラリートーク／各回共に日曜日の14時30分から
4月20日、6月22日、8月10日

【担当】黒澤 学術情報課程教授
5月18日、7月20日、9月7日

【担当】木村 学術情報課程教授
■主催

東京農業大学「食と農」の博物館、東京農業大学学術情報課程および課程の履修学生

◎常設展のご案内（2階展示場）
3月28日から2階の常設展示室に古民家の一部を再現した展示を始めました。日本の美しい四季折々に営まれてきた古来の生活風習を再現した展示も取り入れています。

研究室紹介

Introduction

27

きのこの多機能性を利用した健康増進・環境修復を目指して 需要拡大のための実学研究

東京農業大学教授 林産化学研究室
江口 文陽

きのこは低カロリーでありながら食物繊維などの栄養成分を持っている。また、グアニル酸という、うまみ成分のほか、生体機能を調節してくれる糖やタンパク質複合体も保持する。きのこの持つ酵素は、芳香族環を分解し環境浄化にも貢献する。きのこの持つ多くの可能性を科学し情報発信するのが林産化学研究室だ。

きのこに魅せられて30年

私ときのことの出会い高校3年生の時である。父ががんの手術後、医師から処方された免疫賦活を有する医薬品の原材料がきのこを利用した“クレスチン”であった。その時、私の心の中には、きのこのがんに効くのか……？ どんなメカニズムで効くのか……？ といった疑問が強く残った。疑問を解決するために、きのこ研究に没頭し、きのこの多機能性を解明してきた。成果を得たポイントは、同一名のきのこであっても菌株が変われば、きのこの形、発生に適した環境および食した時の健康効果に差が生じることを考えて研究を推進したからだ。林産化学研究室では、きのこの持つ生理生態や菌株、栽培法に着眼して収穫したきのこの機能性を評価する研究を実施している。機能性効果に関する高い再現性が安定的に持続するきのこの科学を研究・教育し、消費者への情報発信の担い手となる人材の教育、菌株や栽培の重要性を重んじるポリシーをもった研究者・技術者の教育を地道に行うことで「きのこの需要拡大」を少しずつでも実現可能なものへと導いている。

異分野交流による情報発信

きのこは生活習慣病の改善に貢献可能な天然物である。しかしながら科学的根拠なき情報は評価されない。わが国は、高齢社会で急増する中枢疾患、各種臓器疾患、生活習慣病に関連した予防法と治療法について適切な基礎と臨床研究成果を統合的に実施する時期に来ている。林産化学研究室では、生体機能の亢進（こうしん）における漢方薬、新規医薬品および天然物をはじめとした機能性食品などの医療科学的な機序解明や活性本体の探索法の開発について、応用薬理、天然物科学、林産化学の原点に戻って異分野の研究者との交流を深める場を主催している。農学領域、医学領域、薬学領域などの専門分野との複合的な連携の展開も実施し、きのこにスポットをあて、林産物の可能性を異分野の研究者へ発信する中核を目指している。消費者・研究者、そしてきのこの需要拡大を目指して2015年ミラノ国際博覧会日本館サポーターとして筆者は世界にもきのこの魅力を発信する。



人工栽培される色とりどりのきのこ



平成26（2014）年3月1日、震災発生直後から福島県相馬市で実施してきた東京農業大学の東日本支

東日本支援プロジェクト 研究活動の成果を集大成

「農業復興指導書」を刊行

東京農業大学からの成果出版は、学術的な知見に裏付けられた実学の成果を世に問うものであり、「真の農業復興」に貢献することを目指す本格的な農業復興指導書である。

第Ⅰ部では、相馬市長執筆による震災復興に関する未曾有の災害に対する相馬市の取り組みが臨場感を持って体系的に整理されるところに、東京農業大学「東日本支援プロジェクト」が組織化された背景と理念、そして2年半の支援活動の成果の要約が、参加した研究者の悲壮な決意とともに整理されている。

第Ⅱ部では、東京農大の教員が広く取り組んだ震災復興研究の多様な成果（ダチョウや節足動物の放射性汚染、放射能汚染水田での飼料米や稲ホイルクロップサイレージの生産可能性、森林生態系での放射性物質の移動、放射能汚染した公園などの新たな除染方法、被災地の再生モデル、干潟の活用方法）が紹介されている。

第Ⅲ部では、東京農大の教員が広く取り組んだ震災復興研究の多様な成果（ダチョウや節足動物の放射性汚染、放射能汚染水田での飼料米や稲ホイルクロップサイレージの生産可能性、森林生態系での放射性物質の移動、放射能汚染した公園などの新たな除染方法、被災地の再生モデル、干潟の活用方法）が紹介されている。

アカデミアセンターお披露目

OB代表ら160人招待

東京農業大学世田谷キャンパスに完成した「農大アカデミアセンター」のお披露目式が3月28日、同センター1B1横井講堂で行われた。



東京農大アカデミアセンターと講義棟(右)

「実学の杜」がオープン

アカデミアセンター1階



実学の杜

人の学祖「農大の生みの親・榎本武揚と育ての親・横井時敬に関する展示である。ここから右に回って正面奥の壁面が「農大のあゆみ」、農大の誕生と発展を描くヒストリーウォール、そしてさらに右に回り込むと、右壁面が「農大の取り組み、農大のマンパワー」

ホームカミングデーにご参加を

6月21日、世田谷キャンパス

第14回東京農大ホームカミングデーが6月21日(土)、世田谷キャンパスで開かれる。

ホームカミングデーは「卒業生が大学を訪れる日、大学が卒業生を迎える日」で、卒業後に大学との絆をより深める大切な一日。この日は、農大物産即売会や学内見学ツアー、学生によるアトラクション、教育者会議講演会などの他、ラジオ日本アナウンサー・細渕武揚氏が「言葉の力・お喋りは健康の素」をテーマに講演する。式典では親子3代卒業生の表彰も行われる。

受け付けは午前9時30分から、卒業生の家族も自由に参加できるので、家族そろって参加してください。また、この日に合わせ同期会やOB会を企画し、進化した母校の姿を見ていただきたい。

創立125周年記念事業資金募金のお願い

東京農業大学 東京農業大学短期大学部
学長 高野 克己

日ごろから、卒業生の皆さまにおかれましては、本学に
対するご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

平成25年度学位記授与式では、3キャンパスの大学院、
大学、短期大学部を合わせて、3396人の卒業生を社会に送
り出し、今年で創立123年を迎えた本学の卒業生総数は、
15万9000余人と伺っております。

平成26年度入学式では、推薦入試なども含めた入学志
願者数総計3万6506人からの難関を突破した3577人の新入
生を受け入れました。

本学の学びと研究の原点は「農」にあります。「農」を
基本とし、生みの親・榎本武揚公と育ての親・横井時敬先
生の思いを実現するため、本学の教育研究の理念である
「実学主義」の下、農学系総合大学として大きく発展して
います。

これも諸先輩方のご努力とご活躍があってこそそのたまも
の感謝申し上げます。

さて、すでに多方面から記念事業の募金のお願いを申
し上げておりますところですが、創立125周年記念事業と
して「東京農業大学国際センター」を建設いたします。こ
れは、グローバル社会において本学が世界の農学系研究
の拠点大学として、確固たる地位を確立し、さらに飛躍す
るための必要不可欠なミッションと位置付けています。

私が昨年7月に学長に就任した際、東京農業大学の7つ
のビジョンを掲げました。「学生に愛される農大」「教育
で評価される農大」「研究で評価される農大」「地域に貢
献する農大」「社会・産業に貢献する農大」「世界に貢献
する農大」「卒業生に愛される農大」の7つです。特に最
後に掲げた「卒業生に愛される農大」となる志に向けて、
これからも日々努めて参ります。

母校、東京農業大学にぜひとも、本趣意にご理解・ご賛
同いただき、重ねてのお願いとなりますが、卒業生の皆さ
まからのご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

(注)東京農業大学創立125周年事業資金募金のご案内パンフレッ
ト(ゆうちょ銀行口座の払込票)を同封しましたので詳細を参照し
てご協力ください。また、募金趣意書、J A・銀行口座払込票など
ご入用の際は大学の財務部募金課にお問い合わせください。

食の最前線を討議

食品安全健康学科開設記念シンポ

関心高く、高校生も来場

シンポジウム「これから
の『食』をリードする『安
全・安心』&『機能と健康』
の最前線」が平成25年10月
12日、東京都千代田区の丸
ビルホールで開かれた。同
シンポは、応用生物科学部
に平成26年4月に誕生する
食品安全健康学科の開設を
記念して開いたもの。

グローバル化する食の安

全性や食品の機能に対する
関心は高く、食品・検査関
連企業の関係者や一般人、
高校生ら約300人が来場
した。

高野克己学長のあいさつ
に続いて行われたシンポジ
ウムでは、有識者5人によ
る講演が行われた。その後
中江大氏をモデレーター
に、講演者をパネリストと

安全研究センター薬事環境
科学部長)「食品安全科学
の役割―食品組成の変化に
よる実験的発がん事例―」

・大石祐一氏(東京農業大
学教授)「皮膚に対する食
の機能―食によって皮膚の
健康は大きく変動する―」

東京農大経営者フォーラム2013

経営者大賞

内田多加夫氏(昭47院化修)
本 昌康氏(昭50農)
楊 世安氏(平3醸)

第14回「東京農大経営者
フォーラム2013」が平
成25年11月29日、百周年記
念講堂で開かれた。この
フォーラムは15万人余の本
学卒業生の中から卒業後各

界で活躍し、優れた経営成
果を収めている校友を表彰
し、その成果を公表するこ
とによって在学生の学習や
卒業生の実務に役立てると
ともに、OB・OGを応援

・清水 誠氏(東京大学大
学院特任教授)「食品機能
研究の過去・現在・未来」
・一色賢司氏(北海道大学
大学院教授)「食品安全の
過去・現在・未来」

・今井教文氏(フードネス
ト株式会社代表取締役)「食
の革新―環境変化への対応
とスタンダードの進化―」

・中江 大氏(東京都健康



表彰された皆さん

山梨県甲州市の内田多加夫
氏(昭47院化修)が授与され
た。

第8回「食・農・環境」
教育フォーラムは、「若者
に魅力ある農業農村とそ
の未来―実習地の経営者た



第8回「食・農・環境」教育フォーラム、
総合討論の様子

「地域と一体 農を展開」

第8回「食・農・環境」教育フォーラム

3人の農業経営者が報告

ちが語る」のテーマのもと、
平成25年12月18日(水)に、
世田谷キャンパス・百周年
記念講堂で開かれた。

本フォーラムは毎年、東
京農業大学「食・農・環境」
教育研究プロジェクトが中
心となって実施している
が、平成25年は、食料環境
経済学科の創設75周年、国
際バイオビジネス学科が15
周年を迎えたため今回は、
特に両学科の周年事業を意
図した企画とした。そこで、
各地で先駆的な農業経営に

取り組む、かつ農大生の実
習受け入れも行ってきた経
営者3人をパネリストに招
いた。

パネリストの栗原悠次
氏(福岡県八女市)は「八
女茶の経営と産地振興か
ら、世界ブランドを目指
す」、武田晃氏(長野県中
野市)は「果樹経営に基づ
く地域活性化とワイナリー
の展開」、小林和夫氏(長
野県長和町)は「中山間地
域の資源を生かす取り組み
と食農教育の展開」―の
タイトルで、それぞれの経
験に基づき説得力ある報告
を行った。

報告や討議を通じて、高
付加価値型の農業の確立を
めぐる過程が議論され、農

業の幅広い発展の可能性が
浮き彫りになった。また、
地域を見つめ直し、それと
一体的に農業の展開力を考
えることの重要性がクロ
ズアップされた。

近年、本学の女子学生の
占める割合は約44%と高
なっている。この傾向実態
を踏まえ、校友会の将来を
見据えれば、女性会員の考
え方など意見を取り入れた
活動の展開が必要不可欠で
ある。このためには、都道
府県支部に女性部会の設立



小林功子氏と望月きよみ氏(左)



関口玲子氏と太田信子氏(右)

校友会活動の活性化へ 女性参画で検討会

き入った。これまでの受賞
者数は今回の6人を含め1
00人となった。これらの

経営事例は「東京農大
イオビネスケース」にと
りまとめられ出版される。

女子部会会長の関口玲子氏
(昭40短栄)、東京都支部女
性部会会長の太田信子氏
(昭42米)、静岡県支部女性
部会会長の小林功子氏(昭
36農)、同県支部女性部会
望月きよみ氏(昭58短醸)
と三好校友会会長、小野事
務局長、校友会職員の岡本
素子(平9米)、目裕美(平
19米)の8人。

検討会では、上記趣旨を
共有しつつ、次の事項につ
いて意見交換が行われた。
1. 女性が参加しない(で
きない)主な理由は何か。
2. 女性が参加できるため
の環境づくりに必要な事項
は。
3. 女性が校友会活動に参
加することによる効果。
4. 支部女性部会を設立す
る場合、準備(留意事項)
すべき事項。
5. 支部女性部会の設立を
働きかける場合の本部の役
割(留意事項)。

現在11支部に女性部会が
設立されているが積極的に
活動しているところは少な
い。特に女性の場合は、若
い時は家事・子育てと仕事
の両立、子育てが終わって
しばらくすると介護の問題
が出てくる。母校愛も男性
に比べ薄いような気がする。
男性と違った意味で校友会
活動に参加できない理由が
ある。魅力的で楽しい会に
しないと続かないのではな
いか。女性に一定の役割を
持たせることにより積極的
な参加が期待できるのでは
ないか―など数多くの課
題が提起された。この検討
会議は平成26年度も引き続
き開催し、女性参画型の校
友会活動の方向付けの参考
にしていく予定である。

校友会会長のキャンパス訪問「厚木キャンパス」の学生に聞く

厚木キャンパスを1月31日に訪問した。農学科3年の高田郁哉君、畜産学科3年の内田梨央奈さん、バイオセラピー学科3年の門井里沙さんが三好会長と厚木キャンパスでの勉学・研究・進路などについて語りあった。

三好 こんにちは。定期試験で忙しい中、集まっていたありがとうございます。皆さんの厚木キャンパス農学部への志望動機や今の研究内容、課外活動などをお聞きする目的でやってきました。私は53年前の昭和36年の農学科卒業生です。家業が種苗会社だったので父親から種屋を継ぎ、継ぐなら農学科に入れとの一言で進学したことを今でも良く覚えています。高田君は何を学んでいますか。



高田 郁哉 (写真左) 農学科3年
種苗関係で知識生かす
内田梨央奈 (写真右) 畜産学科3年
食肉研究おいしく加工
門井 里沙 (写真中央) バイオセラピー学科3年
動物の健康を支えたい

高田 農学科の植物病理学研究室に所属しています。静岡県出身で父親は製薬会社勤務です。植物が好きという一心から志望しました。作物を育てる方法、植物の病気について勉強中です。

三好 内田さんは畜産学科ですね。
内田 畜産学科畜産物利用学研究室で勉強中です。北海道出身で父親は牛乳の検定検査会社に勤務するサラリーマンです。興味を抱いていた食肉の研究をしたいと思います。畜産学科に入りまして、研究室では、肉のおいしい加工品作りを夢中で勉強しています。今はすごく楽しいです。



三好 農大も女性が半分以上を占める時代になりました。各学科とも女性は何人くらいいるのですか。

3人 農学、畜産は男女半々。セラピーは女性の方が多いと思います。厚木の学生は農業実習や研究室活動で伊勢原農場にもよく行きます。

門井 埼玉県出身でサラリーマン家庭です。伴侶動物学研究室で動物心理について勉強中です。小さい頃から動物に関わりたいと思っていました。動物の心理や行動特性などをもっと知りたいので農大を選びました。農大に獣医学科があったとしてもバイオセラピー学科を選んだと思います。

三好 農大も女性が半分以上を占める時代になりました。各学科とも女性は何人くらいいるのですか。

3人 農学、畜産は男女半々。セラピーは女性の方が多いと思います。厚木の学生は農業実習や研究室活動で伊勢原農場にもよく行きます。

門井 バイオセラピー学科は、動物だけではなく植物も必修で勉強して、3年になったときにどちらか選択します。動物は夏に富士農場で実習があります。



門井 研究室でも行きます。実習では豚の去勢や和牛の角を切る除角、出産のシーンも勉強します。

高田 植物の病気と育種について学んでいます。その知識を生かして農家の手助けになればと考えています。種苗関係に進みたいと考えています。

三好 種苗会社はたくさんあります。会社が一番求めているのは海外での営業マン、英会話ができて明るく元気な子です。頑張ってください。

内田 畜産実習は静岡の富士農場です。1年のときに必須の実習があります。研究室でも行きます。実習では豚の去勢や和牛の角を切る除角、出産のシーンも勉強します。

高田 植物の病気と育種について学んでいます。その知識を生かして農家の手助けになればと考えています。種苗関係に進みたいと考えています。

三好 種苗会社はたくさんあります。会社が一番求めているのは海外での営業マン、英会話ができて明るく元気な子です。頑張ってください。



三好 あと1年で社会人となりますが、抱負を聞かせてください。就職したい会社の目星はついてますか。

高田 昨年度の収穫祭で実行委員長を務めました。収穫祭前に台風が3回あり、ほぼ完成したステージを解体し、また立て直すなど大変でしたが、いい経験になりました。

門井 私は、バイオセラピー統一本部で、収穫祭最後に世田谷キャンパスで行う体育祭に使う各学科のパネルを作りました。他大学の話を聞いても、体育祭をここまで力を入れている大学はありません。私自身も大学生でここまで何かに夢中になれるとは思っていませんでした。

内田 私は、天体観測同好会で流星群を見たりします。ハンドボール同好会にも入っていて、他の学科の友人も多くいます。

三好 厚木キャンパスで学んで良かったということはありませんか。

高田 ここでは農家出身や農業高校出身の方がたくさんいて、農業に関していろいろな話を聞けるのが一番大きいです。稲や花卉(かき)の農家さんに直接話を聞ける機会もあります。

海外協定校との交流盛ん

国際協力センターは、海外の大学等研究機関との交流ならびに協力連携を推進し、本学職員および学生の資質向上に資することにも、本学の国際的社会貢献を推進することを目的として設置された組織である。本センターでは国際教育、外国人留学生支援、国際研究および開発協力の各事業を4本柱として活動しており、今回はこれら事業の中から、国際教育事業における海外協定校との交流状況について報告する。

平成26年度の学生派遣
長期6人、短期133人

(1) 長期派遣では、各海外協定校に8カ月から1年間の期間で学生を派遣している。今年8月には、ミシガン州立大学(米国)1人、フリティッシュュコロニア大学(カナダ)1人、国立中興大学(台湾)2人、フィリピン大学1人、ワーヘンゲン大学(オランダ)1人の計6人を派遣します。派遣先協定校では、語学研修および正規授業を受講する。

(2) 短期派遣では、夏季休業期間の2週間(カナダ、ブラジルコースは3週間)で、ミシガン州立大学(米国)に15人、カセサート大学(タイ)に15人、中国農業大学に15人、フリティッシュュコロニア大学(カナダ)に15人、国立中興大学(台湾)に15人、ソコイネ農業大学(タンザニア)に10人、ボゴール農科大学(インドネシア)に15人。また、今年度は新たに、コネル大学(米国)に15人、アマゾンニア農業大学(ブラジル)に8人、フィリピン大学ロスバニオス校に10人の3コース、計133人を実施する予定。また、フリティッシュュコロニア大学には春にも15人派遣する。短期派遣については、2010年度からのコースも1年次生から4年次生まで参加できるようになった。

3大学から45人受け入れ

(1) 海外協定校の受け入れは、中国農業大学、カセサート大学、台湾国立中興大学から各15人の学生が本学に滞在し、各学部の特性を生かした講義・実験を通じて日本の先端技術を学ぶとともに、厚木キャンパスや関連施設で研修を行う予定。

(2) 海外協定校から6カ月から1年間程度海外長期留学生を受け入れ、前期からフランススーパーサイエンス2人、後期から台湾国立中興大学2人を受け入れる。



日本農業賞大賞に黒富士農場

平飼い・有機卵30年

山梨県甲斐市の向山茂徳氏(昭48畜)



個別経営の部で大賞を受賞した向山茂徳氏(右)=日本農業新聞3月9日付

第43回日本農業賞(JA全中、JA都道府県中央会、NHK主催)を本学OB・山梨県甲斐市の農業生産法人黒富士農場(代表・向山茂徳氏62歳、昭48畜)が受賞した。

個別経営の部に96件、集団組織の部に94件の応募があり、大学教授ら11人でつくる中央審査会の全国審査で受賞者を決めた。3月8日に東京のNHKホールで表彰式が行われた。

山梨県甲斐市にある黒富士農場は採卵鶏の平飼い放牧と有機鶏卵生産のパイオニア。約7万6000羽のうち半数を平飼い放牧している。餌は有機栽培の非遺伝子組み換えトウモロコシにこだわり、鶏卵で国内初の有機JAS認証を取得した。

「支えてくれたスタッフ、地域の人たちのおかげ。

自然と共に生きる暮らしを目指し、たどり着いたのが今の経営スタイル。日本の動物福祉や有機農業は欧米より遅れており、関心を高めるきっかけになってほしい」と喜びを語った。

向山氏は昭和59年に黒富士農場を設立して今年で創業30年。生活クラブ生協山梨と提携するほか、農業の6次産業化推進のモデルとなるオーガニック卵、放牧卵、さくら卵などの生産と自社生産卵をふんだんに使ったバームクーヘンやケーキなどの加工品、それらを販売する直売所「たまご村」の運営など自然農法をベースにした農業と、卵を軸とした食提案を続けている。

日本農業賞は、意欲的に経営や技術の改革と発展に取り組み、地域社会の発展にも貢献している農業者と営農集団や、食や農の担

い手として先進的な取り組みをしている個人・集団組織に授与される。

校友会情報

新HPを見てください

校友会の活動内容を広く会員に紹介するため、準備を進めてきた「東京農業大学校友会ホームページ」を4月1日にアップした。

この新しいホームページ(HP)には、校友会本部情報、校友会組織、支部役員、支部総会の開催などを紹介している。入力作業が遅れており支部ページで未掲載(工事中)の部分があるが、支部からの情報の提供などを受け、こ

●HPアドレス
<http://www.nodai-koyukai.jp>

れから順次、掲載する予定。同期会などの記事掲載はHPに移行

いままでは「校友会ニュース」に掲載していた「分会・部会の開催」「同期会の開催」「支部総会の開催」は、校友会ニュース紙面の関係もあり、今後はHPに掲載することにする(支部総会の開催記事については114号からHPに掲載済み)。

このことにより、校友会ニュース紙面掲載よりは、文字数が多く詳細記事が掲載できるので、500字以内で積極的な記事投稿(写真はデータで提供頂ければ

き、電話などで連絡を。願います。

また、東京農業大学では平成28年が大学創立125周年となることから、125周年記念事業募金を行っている。母校・東京農業大学の発展のため、校友の皆さまのご協力を重ねてお願いする。

住所変更などの届け出(お願い)

校友会では会員名簿(原簿)の整備を進めているが、住所ならびに勤務先の異動による変更など多くの会員が住所不明となっている。

変更通知がないと、校友会ニュースは送付できません。住所を変更された校友(または知合いの方)は、HPから異動届け用紙をコピーしてファックス、はがき、電話などで連絡を。

事務局人事

平成26年4月1日付

▽営業部長(有農大校丘担当・共栄火災海上保険㈱から出向) 安井三己彦

▽臨時職員(営業部長) 大澤有二(有農大校丘担当)

平成26年3月31日付

▽退職 営業部長 大澤有二、契約職員 田中佑子

今年の2月14日は記録的な大雪とともに忘れられない日の一つとなった。今年で24回目を迎えた「世界らん展日本大賞2014」が東京ドームで開かれ、グランプリの「日本大賞」を受賞する荣誉に浴する事ができました。ランに携わる者にとって一度は取りたい賞だと思います。私も今まで何回かチャレンジしてきましたが、なかなか手の届かない賞でした。今回出品したランは、2011年に出品し、4位奨励賞をいただきました。それから3年目のリベンジでした。受賞した「Epitaceon cum McIzuna」(エピソード)

ランです。日本の暑さの中で大きく育て上げた点が高く評価していただきました。山から下ろし、わが

世界らん展で日本大賞受賞
大きかった仲間の後押し

栗野原潤氏(昭和44年 農学部畜産学科卒業)

家から夏にかけ新芽がぐんぐん伸びる生育状態に、「うまくいけば」との思いで力を入れて管理を始めました。夏はシンビ

頂上部まで2.5mに達し、内張りには届いてしまい、慌てて地面を掘り下げ、高さを確保。さらに鉢を温め、液肥を灌水(かんすい)と毎日、咲き具合をチェックして細心の注意を払いました。そのかいあり、審査日にはピタリ七分咲きとなりました。

日本大賞受賞の知らせを受けた日はちょうど長野での洋ラン展開催初日。開催会場で電話を受けました。私はシンビジウム鉢物を中心に洋ラン栽培をしています。始めてすぐ長野に「長野蘭友会」というラン愛好家の会を立ち上げ、洋ランの普及に努めてきました。今年

が第40回記念洋ラン展という節目の年でもありました。受賞の知らせを受け、すぐに東京ドームに直行。表彰式に出席しました。「他のランとは一線を画するオーラが存在している」との素晴らしい評価をいただき感激を新たにいたしました。

今回の受賞の陰には、後継者である息子の適切なアドバイス。また、蘭友会の方々の後押しが大ききことを痛感しております。洋ラン栽培を始め、40年が過ぎ、今までの洋ランとの関わり、そして人との関わり、つながり全ての集大成であったと思っています。

平成7年9月から開始したスポーツ振興基金への募金状況は、平成26年3月末現在累計額1億610万5917円となりました。昨年10月から3月末までに25件、42万6600円の募金を頂きました。ご協力いただきました皆さまに厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

平成25年度前期未寄付金累計実績(平成25年9月末)

募金者数	6466件
募金金額	1億567万9317円

平成25年度後期寄付金実績(平成26年3月末)

募金者数	25件
------	-----

スポーツ振興基金の造成と募金経過

平成25年度後期寄付金実績(平成26年3月末)

募金者数	6466件
募金金額	1億567万9317円

平成25年度後期寄付金実績(平成26年3月末)

募金者数	25件
------	-----

平成25年度後期寄付金実績(平成26年3月末)

募金者数	6466件
募金金額	1億567万9317円

平成25年度後期寄付金実績(平成26年3月末)

募金者数	25件
------	-----

東京農大スポーツ募金などのお願い

校友会では箱根駅伝、硬式野球および相撲などの強化を図る目的で、校友の皆さまにスポーツ募金をお願いしている。平成26年度も300万円を目標にしている。ご支援ご協力をお願いする。

また、東京農業大学では平成28年が大学創立125周年となることから、125周年記念事業募金を行っている。母校・東京農業大学の発展のため、校友の皆さまのご協力を重ねてお願いする。

住所変更などの届け出(お願い)

校友会では会員名簿(原簿)の整備を進めているが、住所ならびに勤務先の異動による変更など多くの会員が住所不明となっている。

変更通知がないと、校友会ニュースは送付できません。住所を変更された校友(または知合いの方)は、HPから異動届け用紙をコピーしてファックス、はがき、電話などで連絡を。

平成26年4月1日付

▽営業部長(有農大校丘担当・共栄火災海上保険㈱から出向) 安井三己彦

▽臨時職員(営業部長) 大澤有二(有農大校丘担当)

平成26年3月31日付

▽退職 営業部長 大澤有二、契約職員 田中佑子

支部総会開催一覧表 (平成25年10月～平成26年3月)						
支部名	平成25年度開催日	出席者		参加者数	場所	講演等
		校友会	大学			
北海道	1月25日	佐藤勝彦常任理事	横濱道成生物産業学部長	88	札幌市	—
山形	3月22日	小野甲二事務局長	—	18	山形市	—
岩手	10月20日	三好吉清会長	高野克己東京農業大学・短期大学部学長	35	盛岡市	—
群馬	2月23日	佐藤勝彦常任理事	宮林茂幸森林総合科学科教授	80	前橋市	宮林茂幸森林総合科学科教授「東京農大と連携する地域づくり」
山梨	11月22日	外園惇副会長	麻生恵造園科学科教授	64	甲府市	—
石川	11月9日	横澤馨常任理事	渡邊文雄生産環境工学科教授	62	金沢市	—
福井	11月30日	横澤馨常任理事	—	29	敦賀市	—
静岡	2月16日	外園惇副会長	—	137	浜松市	春風亭柳好（開演中退）「落語寄席」
三重	10月27日	外園惇副会長	—	36	津市	参議院議員・吉川有美氏（平9開）「日本の農業」
京都	10月12日	横澤馨常任理事	館博短大醸造学科教授	14	京都市	館博教授
大阪	11月9日	福島哲男常任理事	夏秋啓子国際農業開発学学科教授	30	大阪市	—
宮崎	2月22日	尾崎義人常任理事	高橋久光国際農業開発学学科教授	51	宮崎市	—

支部総会に出席し、思うこと

若年層の参加増へ活動に創意工夫を

校友会常任理事 佐藤勝彦

校友会に関わって7年、毎年4～6県ほど出席させていたが、心配なのは参加者が年々減少していることである。

理由として、校友の高齢化は理解できるが、若年層が予想以上に参加していないことだ。若年層は集団行動を嫌うといわれているが、支部活動の運営自体に問題あるのかもしれない。

卒業生は毎年約3000人を超えているので単純に考えれば出席者数が増えても良いはずであるが、住所不明者が多いこともあり、必ずしも計算通りにならない。1000

支部だより



人を超える参加者を記録していた支部は、北海道・群馬県、静岡県、3支部と記憶しているが、今はどうであろうか。

そもそも校友会活動は、会員相互の親睦、社会活動の助長、福祉の向上、母校の発展への寄与である。活動の活性化に重要なことは、その目的を会員によく理解してもらい、多くの校友の参画を期待したいものである。

私が出席した中で、教職員部会や女性部会などの活動以外でさまざまな工夫をしている事例をここに紹介するので参考にできれば幸いである。

①支部役員自ら会員宅を訪問、総会へ出席するよう働きかけている。まさに

ボランティア的活動で敬服に値する。

②地域後継者推薦で入学した学生を総会に出席させている。先輩と協働することにより、将来の担い手を育成している。

③東都大学野球リーグの加盟校の卒業生によるゴルフ大会に参加、農大の結束力を高めている。

④若年層が出席しやすいように、「オイ、コラ、お前」など、先輩後輩の上下関係をあからさまにする言動や行動は慎むようにしている。

⑤校友の生産品を持ち寄り、懇親会で食味したり、景品などに利用したりしている。会員相互の職業を知ることにより親睦の効果が

平成25年度ブロック会議開催

平成25年度校友会支部ブロック会議は下記の内容と日程で開催され、ブロックとしての重点要望・提案事項として集約し、全国支部長会議に会議当番県代表から報告・提案された。

ブロック名	開催日	出席者	参加者数	場所
北海道・東北ブロック	10月26日	三好吉清会長 小野甲二事務局長	12	山形県天童市
関東・甲信越ブロック	10月18日	三好吉清会長 尾崎義人常任理事 福島哲男常任理事 小野甲二事務局長	27	東京都立川市
東海・近畿・北陸ブロック	11月16日	外園惇副会長	26	福井県あわら市
中国・四国ブロック	11月16日	三好吉清会長 小野甲二事務局長	25	香川県高松市
九州ブロック	11月2日	三好吉清会長 小野甲二事務局長	18	福岡県柳川市

校友会功労表彰者

— 退任支部長・幹事長 —

東京農業大学校友会表彰規程に基づき、支部長・幹事長を通算10年以上務め、校友会支部活動に顕著な功績を残された方々を校友会功労者として表彰している。

岩手県支部

田沼征彦氏（昭42造）

佐賀県支部

片淵弘晃氏（昭34工）

千葉県支部

石井睦弘氏（昭49林）

大阪府支部

南部一郎氏（昭44農）

出ている。

⑥ボランティア活動を行い、結束を図っている。支部活動が母校のPRともなり会員の一体感が深まっている。

⑦隣接支部と共同して学生の就職支援活動や交流活動を行い、ブロック相互

6団体、個人10人を表彰 校友会主催農友会激励懇親会



校友会主催の農友会激励懇親会が平成26年1月16日、グリーンアカデミーホールで開かれた。体育団体を中心に51団体・総勢約150人が参加。厚木キャンパスやオホーツクキャンパスの硬式野球部、競技スキー部も参加した。

この催しは、平成25年度の農友会の活躍をたたえるところに、さらなる健闘を期待して、各部の部長、監督、主将、幹事を招待。伝統ある大会への出場や優秀な成績を収めた団体または個人に対し、校友会会長褒賞が授与されるもの。

冒頭、三好吉清会長があいさつ、続いて東京農業大学農友会会長・高野克己学長があいさつした。次に、日本選手権、全日本、東日本・関東大会で顕著な成績

の親睦を厚くしている。

⑧産業祭などでB級グルメを出店、その普及活動に取り組み、母校のPRにもなっている。

⑨管内で活躍している校友が体験談などの講演を行っている。会員の発奮材料となり効果がある。

を収めた6団体および個人10人が表彰された。

また、相撲部の長谷川将臣君、陸上競技部の岩渕慎也君、オホーツク硬式野球部の平雄介君から新年度に向けての力強い決意表明が行われた。全学応援団の栗原健新団長のリーダーで学歌斉唱、三好会長、高野学長、高橋久光農友会副会長・農友会体育団体連合会の宮林茂幸会長の鏡開きで開宴、和やかで盛大な懇親会であった。

分会・部会の開催

神奈川県校友会県央支部通
常総会を開催

7月27日第18回総会を厚木キャンパスで開いた。湘南常稲校会の松居会長、他近隣の支部長らが来賓とし



東京農業大学校友会会長表彰団体・個人一覧

表彰部	氏名	学科	大会日	大会名	成績
相撲部	団 体		11月3日	第91回全国学生相撲選手権大会	第3位
	個人	小柳 亮太 森林2	11月3日	第91回全国学生相撲選手権大会	準優勝
	個人	正代 直也 開発4	11月3日	第91回全国学生相撲選手権大会	第3位
陸上競技部	団 体 男 子		1月2日 1月3日	第90回東京箱根間往復大学駅伝出場	出場
	団 体 女 子		10月27日	第31回全日本女子駅伝対校選手権大会	出場
	個人	飯野 摩耶 経済2	6月9日	第97回日本陸上競技選手権大会（兼・モスクワ世界選手権代表選考会）／1500m	第3位
ボクシング部	団 体		7月13日	第66回関東大学ボクシングリーグ戦	準優勝
	個人	青木 貞頼 ビジネス4	8月29日	2013年ボクシング世界選手権出場／フライ級	出場
		齋藤 一貴 ビジネス3		2013年ボクシング世界選手権出場／ライトウェルター級	
		青木 貞頼 ビジネス4	11月17日	第83回全日本アマチュアボクシング選手権大会／フライ級	優勝
		齋藤 一貴 ビジネス3		第83回全日本アマチュアボクシング選手権大会／ライトウェルター級	優勝
レスリング部	個人	角田 友紀 開発4	6月16日	平成25年度全日本選抜選手権大会（兼・ハンガリー世界選手権代表選考会）フリースタイル120kg級	第3位
		飯田 将彦 工学3	8月23日	2013年度全日本学生レスリング選手権大会グレコローマンスタイル84kg級	第3位
		中村 裕真 経済2	10月18日	2013年度全日本大学グレコローマンスタイル選手権大会60kg級	第3位
		山田 圭史 開発3	10月18日	2013年度全日本大学グレコローマンスタイル選手権大会96kg級	第3位
オホーツク硬式野球部	団 体		6月11日	第62回全日本大学野球選手権大会	出場
オホーツク競技スキー部	個人	田中 北人 産経4	12月11日	第26回ユニバーシアード冬季大会	出場
剣道部	団 体		11月4日	第61回全日本学生剣道優勝大会ベスト8（敢闘賞）	特別賞

新時代に向けた研究に対応していることを感じました。

懇親会では、黄金井一太顧問から厚木市特産の黄金井酒造の新酒「盛升」の差し入れがあり、相互の親睦を図ることができた。最後に本学応援団OBの服部氏の指揮で学歌を斉唱、終了した。

オホーツク分会北見会を開催

11月22日、北見プラザホテルで開いた。北見会の会員は世田谷出身17人、オホーツク出身54人の計71人。参加者は11人、来年は20人を目標にしたい。少人数であったが、和気あいあいにて懐かしさに感無量。



同期会の開催

昭和48年卒農経学科同期会

平成25年9月1～2日、仙台市で開いた。東北に決めたのは、前回、卒業以来38年ぶりの同期会が東日本大震災直後であったため「これなかった人もいた。次は東北で」との声が多かったためだ。出席者は前回より少なかったが、北海道から九州まで23人が参加し、近況を語り合い、青山ほとりで勢いづきカラオケへと繰り出した。



東京農業大学三十一周年同期会 平成25年9月25日 北海道

翌日は被災地の石巻へ。地元の高校教諭が体験談を交え悲惨さを語ってくれた。まだ爪痕の消えない街の様子から多くを学び、犠牲になった方々のご冥福を祈った。

農経50会「昭和50年卒業」

平成25年10月5～6日、グリーンアカデミーホールで開いた。本会は昭和50年農経を卒業した旧西山・保志・松田ゼミのメンバーが中心となり、還暦を迎えたことを記念し開催されたもの。



農学31年会を開催

農学31年会は、故・中村武久名誉教授を中心に日帰りで開催していたが、卒後20年を節目に1泊とした。昭和50年の修善寺温泉を振り出しに、5年に1度と決めたが、やがて3年に1度となり、平成16年からは毎年となった。

故・中村氏の意志を継承しつつも、われわれも八十路と歳を重ね、欠けて逝くメンバーが増える中、平成



物故者への黙とう（住職の「一之瀬君の読経」、懇親では当時の思い出、北海道富良野での農業実習（富良野麓郷が有名になる前）、ゼミ視察研修、試験の時誰を頼りにしたかなど、農大ブランドの酒・焼酎を傾けつつ、得意のどを披露する者もあり、大いに盛り上がった。

翌日は、キャンパスや馬事公苑を散策、新宿で遅れて合流する者もあり、また懇親。数人は世界遺産に登録された富士山を眺め河口湖方面に向かうため、名残惜しくもまたの再会を約し散会となった。

農工学科40年卒「40農学会」

平成25年10月8～9日、宮城・松島温泉の湯元松島一の坊で沖縄から北海道までの級友39人が参集し盛大に開いた。



では温故知新・近況報告など、2次会ではカラオケざんまい。それぞれの思いを語り合った1泊2日であった。次回には平成27年、沖縄での再会を誓って散会した。

大学予科入学18クラス会

平成25年10月21日に新宿で開催、参加者は10人。この1年間の物故会友へ黙とう。大学の状況や箱根駅伝予選会などを語り合った。みんなの思いは70年前の予科入学にさかのぼる。第2次大戦の戦局不利のなか2年で短縮卒業、兵役延期で新



設された農芸化学科と農業土木科に進学した。終戦後の復学者は100人あまり。入学時の170人あまりが学徒出陣や中退。消息不明者は約60人を数える。物故者は82人、案内状は30人ほどであった。お互いの健康と再会を期し、散会した。

平成25年10月9～10日の1泊2日、熱海ニューアカオで12人が参加して同級会を開催した。卒業から57年、この同級会も第1回から数えて20回目。同級生諸君はすこぶる元気で、学生気分を満喫、農大の発展を祈念し散会した。

農経学科31年卒クラス会

毎年10月、2泊3日の日程でクラス会を行う。前回は琵琶湖、平成25年は千葉房総半島の旅だった。初日は東京スカイツリーが眺められる東京アクアライン「海ほたる」で昼食。2日目は銚子のヒゲタ醤油工場見学、犬伏埼灯台、佐原の街並み散策と伊能忠敬記念館の見学。3日目は成田山新勝寺、佐倉の国立歴史民俗博物館を見学、2020年の東京オリンピックまで「元気で頑張ろう」を合言葉に散会した。



柔道部年度別有志同窓会

昭和42年から45年まで、柔道部に籍をおいた面々が、平成25年11月21日に京都の本山妙覚寺で同期会を開いた。青春のまつた中の一時期、共に汗を流した仲間が上下の関係なく、しかも23人という大人数が名利寺院に集い歓談した。物故者となった友人への供養や真つ盛りの紅葉を東山界



会員の動静

慶

叙勲・褒賞の栄に輝いた校友（平成25年）

- 瑞宝双光章（平25秋）
- 京都府支部 芦田 富男氏（昭37化）
- 瑞宝単光章（平25春）
- 茨城県支部 細野 文哉氏（昭33短釀）
- 瑞宝単光章（平25秋）
- 宮城県支部 行方 博氏（昭47造）

当選・就任

- 市長
- 新潟県支部 胎内市 9月22日
- 吉田 和夫氏（昭43経）
- 青森県支部 平川市 1月26日
- 長尾 忠行氏（昭46農）
- 町長
- 徳島県支部 上板町 10月21日
- 七条 明氏（昭50農）
- 栃木県支部 那珂川町 10月28日
- 福島 やすお氏（昭49拓）
- 静岡県支部 函南町 3月20日
- 森 延彦氏（昭44造）

支部長

- 東京都支部 本間 惇氏（昭42工）
- タイ国支部 SOMCHAI氏（平6院農博）
- 岡山県支部 赤澤 猛氏（昭44農）
- 佐賀県支部 古川 繁樹氏（昭49工）
- 岩手県支部 千田 武宏氏（昭43拓）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

- 梶山 健一郎氏（昭19専化）
- 大阪府支部 平成25年1月29日
- 坂田 敏郎氏（昭45農）
- 大阪府支部 平成25年2月13日
- 廣貴 平八郎氏（昭20専拓）
- 大阪府支部 平成25年2月23日
- 大津 利昭氏（昭41林）
- 北海道支部 平成25年2月
- 斉藤 順氏（昭46農）
- 北海道支部 平成25年4月4日
- 西原 景哲氏（昭33経）
- 大阪府支部 平成25年6月19日
- 富高 彌一平氏（昭35院農修）
- 東京都支部 平成25年6月20日
- 黒松 喜英氏（昭24学化）
- 大阪府支部 平成25年7月26日

柳田 藤治氏（昭33釀）

- 東京都支部 平成25年8月5日
- 小野澤 宏氏（昭25専農）
- 新潟県支部 平成25年8月31日
- 端山 重男氏（昭21学農）
- 神奈川県支部 平成25年9月2日
- 長沼 毅氏（昭52釀）
- 新潟県支部 平成25年9月27日
- 角田 忠士氏（昭31農）
- 神奈川県支部 平成25年9月29日
- 近藤 俊雄氏（昭34経）
- 北海道支部 平成25年10月13日
- 荒井 康雄氏（昭28学農）
- 東京都支部 平成25年10月16日
- 佐藤 哲康氏（昭44化）
- 新潟県支部 平成25年11月1日
- 今西 隼夫氏（昭41化）
- 三重県支部 平成25年11月2日
- 吉岡 孝氏（昭28農）
- 千葉県支部 平成25年11月3日
- 杉山 利栄氏（昭41化）
- 広島県支部 平成25年11月3日
- 北川 克巳氏（平6産経）
- 北海道支部 平成25年11月3日
- 岩崎 弘氏（昭34経）
- 群馬県支部 平成25年11月22日
- 谷川 茂久氏（昭36釀）
- 石川県支部 平成25年12月13日
- 川島 栄氏（昭30農）
- 神奈川県支部 平成25年12月17日
- 宮北健一郎氏（昭38経）
- 北海道支部 平成26年1月5日
- 安地 和夫氏（昭36経）
- 石川県支部 平成26年1月13日
- 岡崎 博氏（昭25耕講）
- 茨城県支部 平成26年1月24日
- 石島 芳郎氏（昭37農）
- 沖縄県支部 平成26年2月14日
- 藤本 彰三氏（昭47拓）
- 東京都支部 平成26年2月16日
- 古川 司氏（昭33経）
- 鹿児島県支部 平成26年2月22日
- 杉村 敬一郎氏（昭21学農）
- 神奈川県支部 平成26年3月15日

農友会 活動

農友会表彰式受賞者

平成25年度優れた活躍をした農友会の表彰式が3月19日、百年記念講堂で行われ、高野学長（農友会会長）から賞状・記念品が贈られた。

文化団体連合会

●農友会賞

〈優秀個人賞〉

▽農友会社交ダンス研究部 前田裕一郎（バイオ4）阿部聖子（バイオ4）組
中川卓哉（経済4）山田綾乃（開発4）組

●農友会会長賞

〈優秀団体賞〉

▽農友会社交ダンス研究部

〈優秀個人賞〉

▽農友会講演部 沢田石武瑠（ビジネス2）

●農友会功労賞

〈優秀個人賞〉

▽農友会書道部 野中詩織（バイオ4）菊地智博（工学4）

体育団体連合会

●農友会新人賞

▽農友会ボディビル・

●農友会賞

〈優秀団体賞〉

▽農友会卓球部

〈優秀個人賞〉

▽農友会体操部 高橋結奈（化学4）▽農友会ボディビル・パワーリフティング部 南場航太郎（森林1）玉城夏樹（醸造4）音田靖幸（ビジネス4）荒川弦矢（醸造3）▽農友会フクロス部 安田恵理（短策2）鈴木淳平（醸造4）市原一輝（経済4）武田真人（ビジネス3）高橋昂洋（醸造4）▽農友会相撲部 百瀬潤仁（森林2）池田行宏（開発4）▽農友会ボクシング部 近藤広貴（経済3）佐川遼（ビジネス2）

▽農友会レスリング部 山田圭史（開発3）中村裕真（経済2）▽農友会陸上競技部 佐藤駿（ビジネス2）佐野雅治（経済2）戸田雅稀（経済2）村山佳悟（経済4）

（経済4）

●農友会会長賞

〈優秀団体賞〉

▽農友会ボディビル・パワーリフティング部

〈優秀個人賞〉

▽農友会陸上競技部 飯野摩那（経済2）▽農友会ボディビル・パワーリフティング部 間嶋秀伍（化学3）▽農友会相撲部 中畑裕雅（森林1）小永佑也（開発3）小柳亮太（森林2）正代直也（開発4）オチルフ・ウスフバヤル（ビジネス4）▽農友会ボクシング部

体育団体 相撲部

相撲部

第90回東京箱根間往復大学駅伝競走（平成26年1月2〜3日）で、本学はシード権奪取を目標に健闘したものの総合第14位に終わった。この結果について、陸上競技部関係者は次の通りコメントした。

パワーリフティング部 勝田航佑（栄養1）

第90回東京箱根間往復大学駅伝競走（平成26年1月2〜3日）で、本学はシード権奪取を目標に健闘したものの総合第14位に終わった。この結果について、陸上競技部関係者は次の通りコメントした。

全国の校友の皆さまから温かいご支援とご声援を賜り、心より感謝している。予選会を1位で通過し、5位以内、最悪でもシード権確保との目標を掲げて挑みましたが、序盤の出遅れが響き、往路14位・復路12位、総合14位という結果となってしまった。環境の整備強化、優秀選手の獲得で圧倒的に優位といわれる上位6校がそのままだけ出し、その他各校で順位を争う展開となった。7位以下の争いでは、留学生を利用するなど序盤に流れに乗った大学が10位以内を維持し、総合力で勝るはずの予選会上位5校が全て10位以内に

箱根駅伝 総合14位に終わる

入る事ができないという波乱の結果であった。復路で農大記録を2分近く更新したが、それでも12位と大学陸上界のレベルアップも著しくなっている。上位数校とその他各校の戦力の二極化は、今後しばらく続くことが予想される。本学が本戦で勝負していくためには、他大学のエース級に通用する選手の育成と新戦力の獲得、さらには上位校と同等以上の環境整備を行っていくことが急務となっている。ここ数年、各校とも次々に寮の新設、クロスカントリーランニングコースの設置など、環境整備を図っている。来年度も大変厳しい状況にあるが、引き続き、選手、関係者一同精進を重ね、必ず予選会を突破し、シード権の奪回と上位入賞を目指す所存である。全国の校友の皆さまのますますのご支援ご協力をお願いしたい。

部 金澤宣明（ビジネス1）斎藤 貴（ビジネス3）▽農友会硬式野球部 陽川尚将（ビジネス4）

●南賞

〈優秀団体賞〉

▽農友会相撲部

〈優秀個人賞〉

▽農友会ボクシング部 青木貞頼（ビジネス4）

●農友会功労賞

▽農友会ボクシング部 吉野修一郎（ビジネス4）▽農友会レスリング部 角田友紀（開発4）

百瀬潤仁（森林2）準優勝【135kg未満級】小永佑也（開発3）優勝 池田行宏（開発4）準優勝【75kg未満級】中畑雄雅（森林1）準優勝

第38回全国学生相撲個人体重別選手権大会（平成25年9月22日、靖国神社相撲場）個人戦 無差別級 正代直也3位【135kg未満級】小永佑也3位【75kg未満級】中畑雄雅2位

第62回東日本学生相撲リーグ戦（平成25年10月6日、靖国神社相撲場）団体戦 3位

第91回全国学生相撲選手権大会（平成25年11月2、3日、大阪府堺市大浜公園相撲場）団体戦 3位、個人戦 小柳亮太（森林2）準優勝、正代直也3位

一昨年覇者の正代は準決勝で一ノ瀬（日体大4）に、小柳も決勝で一ノ瀬に敗れた。

第62回全日本相撲選手権大会（平成25年12月8日、両国国技館）個人戦 正代直也決勝T3回戦敗退

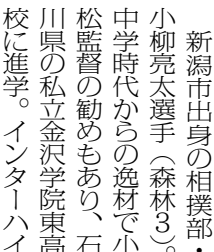


正代直也選手が
時津風部屋に入門

正代直也選手（開発4）が大相撲時津風部屋に入門、記者会見が2月4日に行われた。高野克己学長（相撲部長）、時津風親方（坂本正博氏・平8豊、安井（相撲部総監督）、小松（相撲部監督）が同席した。しこ名は「正代（しょうだい）」。

団体優勝狙う 相撲部のホープ 小柳亮太選手

新潟市出身の相撲部・小柳亮太選手（森林3）。中学時代からの逸材で小松監督の勧めもあり、石川県の私立金沢学院東高校に進学。インターハイ



ベスト8の成績で農大に進学。めきめきと頭角を現し昨年11月・全国学生相撲選手権大会（インカレ）で2年生ながら個人・準優勝に輝いた。

趣味はアウトドアスポーツと食べ歩き。女優（モデル）の香里奈がタイプだと笑顔で話す好青年だ。

身長184cm・体重160kgの無差別級の巨漢。6月の東日本大学学生相撲選手権で波に乗る、今秋のインカレでは是非でも団体優勝を目標に、学生横綱も取りたいと力強く語る。

小柳亮太選手

野球部

陽川尚将選手が阪神から指名・入団



イル選手権大会で団体入賞

平成25年10月24日に行われたドラフト会議で陽川尚将選手（内野手・ビジネス4・金光大阪高出身）が阪神タイガースにドラフト3位で指名され入団した。高校在学中の3年次には主将として選抜大会に出場。秋のドラフト会議で巨人から育成3位で指名を受けたが、本学に進学。大学在学中は1年春から内野手レギュラーで活躍した。

農大は全階級に出場、60kg級の中村裕真（経済2）、96kg級の山田圭史（開発3）が3位入賞した。また、120kg級の角田友紀（開発4）の5位入賞とポイントを重ね、出場22大学中8位に入賞した。

世田谷キャンパス硬式野球部、2部残留

東都大学野球秋季リーグ戦では3勝8敗・勝点1で6位、3部との入れ替え戦で大正大に連勝し2部残留を決めた。

ラグビー部

関東大学リーグ戦3部優勝

関東大学ラグビー3部リーグ（全6部リーグ中）において、6勝1敗で24年ぶりのリーグ優勝を果たした。入れ替え戦（平成25年12月8日）では2部8位の白鷗大に敗れた。

レスリング部

平成25年度全日本大学レスリンググレコローマンスタ

平成25年12月21〜23日、東京代々木第2体育館で行われた天皇杯選手権大会に3人が出場。本大会は、オリンピック3連覇の吉田沙保里と伊調馨、ロンドンオリンピック金メダリストの米満達弘らが出場する国内最高峰の大会。出場した3人は、全日本選抜選手権と全日本学生選手権で入賞し、出場資格を獲得した。グレコローマンスタイル60kg級の中村裕真、グレコローマンスタイル96kg級の山田圭史、フリースタイル120kg級の角田友紀の3人。

陸上部

女子長距離 杜の都駅伝
11位と健闘

第31回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)が平成25年10月27日に仙台市で行われた。本学は3年ぶりの出場で総合11位と健闘。来年のシード権確保(8位以内)は、惜しくも15秒差で逸したが、2013全日本大学女子選抜駅伝競走への出場権を獲得した。



2013全日本大学女子選抜駅伝競走(平成25年12月23日・富士山女子駅伝Ⅱ富士市・富士宮市)は2時間29分08秒で総合11位の成績に終わった。

ボクシング部

第68回国民体育大会ボクシング競技会で準優勝

平成25年10月4〜8日に行われた国体に8人が出場。ウェルター級・吉野修一朗(ビジネス3)が準優勝、ウェルター級・近藤広貴(経済3)、ライト級・佐川遼(ビジネス2)が3位、ライトフライ級・華井玄樹(OB)、ミドル級・助川康平(開発3)が5位。

第83回全日本ボクシング選手権大会 優勝

平成25年11月13〜17日、長崎県雲仙市で行われた大会で3人が入賞。フライ級・青木貞頼(ビジネス4)、ライトウェルター級・齋藤一貴(ビジネス3)が優勝。

剣道部

第61回全日本学生剣道優勝大会で敢闘賞を受賞

平成25年11月4日に日本

文化団体

社交ダンス部

第107回東都大学学生競技ダンス選手権大会

平成25年10月13日に埼玉県草加市の独協大学35周年記念館で行われた選手権(参加28校)で、ラテン種目のパンドブレで中川卓哉(経済4)・山田綾乃(開発4)組が準優勝。モダン種目のワルツで前田裕一郎(バイオ4)・阿部聖子(バイオ4)組、タンゴで柿寄伸亮(経済3)・新保七海(森

林3)組が3位に入賞した。第93回東都日本学生競技ダンス選手権大会

平成25年11月17日に埼玉県草加市の独協大学35周年記念館で行われた選手権大会1部戦で、モダン種目のクイックステップで、前田裕一郎・阿部聖子組が3位に入賞。フォーメーション(8カップルが数種のモダン種目をメドレーでラインを構成しながら踊るダンス)で3位に入賞した。

第58回全日本学生競技ダンス選手権大会で、フォーメーション準優勝

講演部

第47回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会を開催

平成25年12月22日、東京農業大学世田谷キャンパス百周年記念講堂で、農友会講演部主催の全日本学生弁論大会が行われ、沢田石武瑠(ビジネス2・弁士)が準優勝を獲得した。

グリーンアカデミーホール—校友会館—

グリーンアカデミーホールは母校創立90周年を記念して、全国校友より寄せられた募金をもとに建設されたものです。
会議室 休養室(宿泊) レストラン
数名から150名までの大学への用務、同窓会、研究会、修会などでお泊まりの時、会合にご利用いただけます。会議室は5室。父母の方が上京された折、望にに応じたセットをいたします。
申込方法 平日は9時〜17時 校友会事務局へ Tel.03-3429-1983 (土・日・祭を除く) (株)農大常磐松 Fax.03-3427-2271

OBの活躍

吉原正平投手(平24経) 千葉ロッテに入団

平成25年10月24日に行われたドラフト会議で、本学野球部OBの吉原正平さん(平24経・現日本生命・東筑紫学園出身)が千葉ロッテマリーンズにドラフト4位で指名され入団した。現中日ドラゴンズ松井佑介外野手(平22ビジネス・大阪商大堺高出身)以来4年ぶり。



吉原正平投手

高木伴選手(平25経)「侍ジャパン」に選ばれ出場
平成25年11月8〜10日

4月5日の日本代表選考試合でボクシング部OBの青木貞頼さん(平25ビジネス・農大二高校事務職員)が第17回アジア大会の出場権を手にした。「金メダルを目指す。またリオ



青木貞頼選手



高木 伴・NTT東日本投手 背番号17



柴田寛選手

デジャネイロ五輪の出場も狙う。農大関係者のご支援に感謝したい。応援してほしい」と語った。

た。アジア大会は9月19日〜10月4日、韓国・仁川で開かれる。

柴田寛選手(平9農) 天皇杯全日本選手権大会 最多出場で表彰

平成25年12月21〜23日に行われた天皇杯全日本レスリング選手権で本学OBの柴田寛さん(平9農・周南市役所)が20回目の出場を果たし、日本レスリング協会から特別表彰された。柴田さんは39歳。大学時代から全日本選手権出場を続け、昨年は浜口京子の出場回数18回を超えて今回、大台に乗せることができた。

第92回天皇杯全日本スキー選手権大会に14人出場
市村耕太郎選手がクロスカントリーSで8位入賞
平成26年1月27〜30日、長野県白馬村などで行われた天皇杯に14人が出場。本大会はオリンピックメダリストなどが出場する国内最高峰の大会。14人は昨季の全日本選手権やインカレ、今季の公認大会などで入賞するなど国内上位ランキングにより出場資格を獲得。特にクロスカントリー種目では9人が選抜されるとともに、リレー競技では早稲田、日大とともに3年連続

で出場した。そのうちクロスカントリーSプリントに出場した市村耕太郎(産経2)が8位に入賞。
第87回全日本学生スキー選手権大会 3種目で表彰台
リレーは1秒差での準優勝！
平成26年2月15〜20日、岩手県の八幡平市・雫石町で開かれ、アルペン種目の回転(スラローム)では佐藤優(生産1)が農大アルペンでは初となる準優勝を果たした。クロスカントリー種目10キフリーではユニバーシアード日本代表となった主将の田中北人が3位、高橋涼(産経4)が8

位入賞。大学対抗リレー1走・大川翔平(産経3)・2走・市村耕太郎、3走・高橋涼、4走・田中北人)では、初優勝を狙い日大、早大、明大などと激しい闘いとなったが、日大に1秒差で敗れ準優勝と健闘した。

全学応援団チアリーダー部

2014世界大学チアリーディング選手権で総合3位
平成26年1月18〜19日に米国フロリダ州で行われたWorld University Cheerleading Championships 2014に出場、Naions Cup(総合) 3位となった。

東京農大校友会ホームページを開いて見よう!

http://www.nodai-koyukai.jp

Eメールアドレス

ko3883@nodai.ac.jp



編集後記

春号をお届けします。楽しみに待っていてくれる校友先輩諸氏に一日も早く届けたいと思いつつも、年度替わりの慌ただしい中での編集作業、悪戦苦闘しながら何とか仕上げることができました。

世田谷キャンパスの卒業式は氷雨模様の悪天候。袴(はかま)に小振り袖スタイルの女学生の晴れ姿もちょっと気の毒でしたが、新たな人生に向けた笑顔が満開。一方、入学式では真新しいスーツに身を包み、満開の桜の下で緊張の中にも喜びの笑顔が満開。それぞれ満開の笑顔記念写真に納め、この日を忘れないでほしいと願った。(小野)

編集委員

- 委員長 小泉 幸道 (副学長・醸造教授)
- 委員 館 博 (短醸・教授)
- 委員 佐藤 勝彦 (校友会常任理事)
- 委員 豊原 秀和 (校友会常任理事・名誉教授)
- 委員 小野 甲二 (校友会事務局長)

